

「北極圏旅行記 2017 夏 (14)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 ヴェストフィヨルドの船旅～

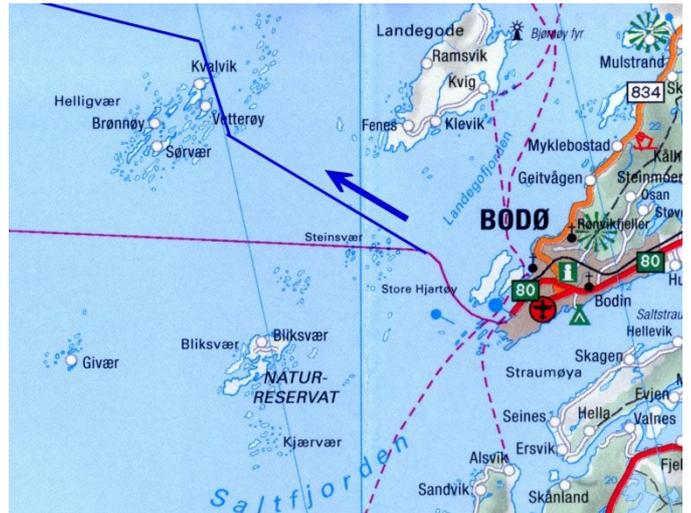
フェリーは外洋に出た。実は外洋といっても、スカンジナビア半島(本土)とロフォーテン諸島に挟まれた湾である、ヴェストフィヨルド(Vestfjorden)である。ノルウェー語で「西の狭湾」という意味である。ノルウェーといえばフィヨルドの景観が有名だが、湾口がせまく、細長い湾の地形を思い浮かべる。



しかしヴェストフィヨルドは実に巨大である。湾口の幅が約100km、ナルビクまでの奥行きが約200kmと、ちょっと普通のフィヨルドとはスケールがちがう。実はこの大きなフィヨルドの枝湾である、小さなフィヨルドが無数にあり、それが美しい景観を作っている。私が乗ったフェリーは、この湾口を横断するものだ。



湾口にはいくつかの小さな島があり、その島々をすりぬけるように航路がつけられている。その為に、岩礁にも小さな灯台が設置されている。



ノルウェーで買った地図には、赤線の航路が示されていたが、実際は青線のように、小さな島の間を通った。驚いたことに、こんな小さな岩の島にも「町」の記号があり、地名も付されている。



実際にフェリーの上から、小さな町が見えた。民家や少し大きな建物、それに教会のようなものも見える。



この群島の航空写真を見ると、北東から南西に向かって細長い島と海峡が連なっていて、かつてその方向に氷河が流れたことを物語っている。恐らく岩と草ばかりで、樹木は一本もないだろう。



更に驚いたことに、Helligvær という島をグーグルマップで拡大表示すると、「スーパーマーケット」という表示がある。写真を見ると、結構栄えているようにも見える。定期船はないが、いつか行ってみたい。



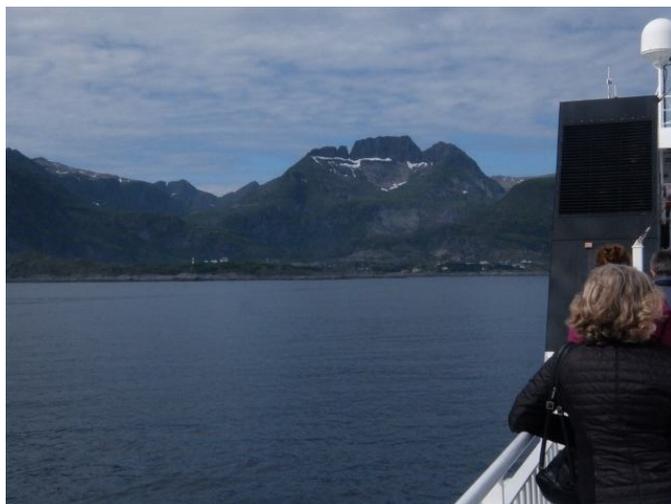
”COOP Helligvær” (Howard Sykes 氏撮影)



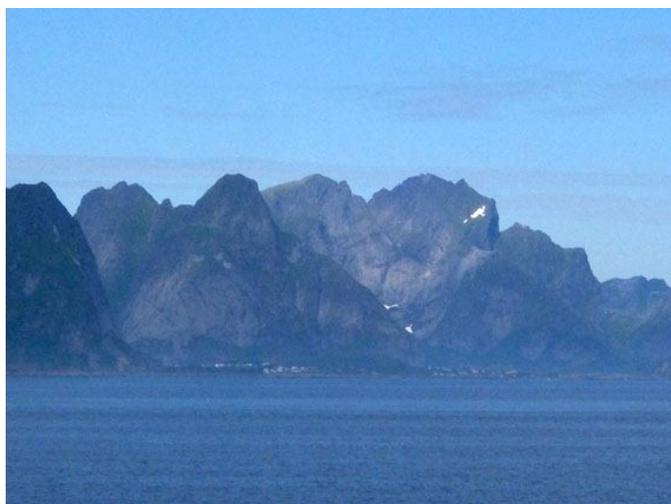
フェリーは、湖のように静かな海を順調に進み、ついに目的地のロフォーテン諸島が見えてきた。



島影は徐々に大きく、はっきりとしてきた。途中姉妹船ともすれ違った。夏季は4隻のフェリーで運用している。それぞれ速度がちがひ、また別の島を経由する船もあるので、到着時間に差がある。私が乗った船は直行便で速度も速いので、3時間15分で到着する。



島が近付くと、地形もはっきりしてきた。山頂付近に雪が残る山もわかる。切り立った岩山が多い。



到着30分前、町の建物も見えてきた。地形から見て、一番行って見たかった「レイネ」のようだ。